

2026 年度フルブライト米国人招へい講師 受け入れ大学の募集要項

■ 目的

「フルブライト米国人招へい講師プログラム」は、米国人教授が日本の四年制大学にてそれぞれの専門とする人文・社会科学の諸分野の講義を通して、日本の学生に米国の歴史、社会、文化、思想等を紹介し、米国への理解を深めることを目的としています。

講師派遣の対象となる大学は、既存のアメリカ研究講座を持つ大学はもとより、フルブライト米国人招へい講師（以下、講師）による講義が学生にとって何らかの教育効果をもたらすと期待する大学も含まれます。なおこのプログラムは、語学（英語）教育、特定の米国人を招へいするための財政面の援助、不在になる教授の担当科目の代講、外国人留学生対象の英語で行われる授業の担当、等を目的とするものではありません。

■ 規模（招へい講師の人数）

約5名

■ 期間

講師の滞在期間は、通常9月半ばから翌年の7月半ばまでの10カ月間です。ただし、一学期（半期）のみの場合は、9月半ばから翌年の2月半ばの5カ月間、または翌年3月半ばから8月半ばまでの約5カ月間となります。

■ 受け入れ講師の担当授業

1) 担当授業科目

- 講師の専門分野は、人文・社会科学系の分野に限られ、尚且つ、米国に関する講義が望まれます。
- 講師が担当する授業科目ないし講座は、日本人学生（学部学生・大学院生）を対象とし単位付きの正規の授業科目であることとします。必修・選択、講義・ゼミ形式のいずれでも構いません。
- 講義はすべて英語にて行うものとします。
- 語学講座（英語）、不在になる教授の担当科目の代行、外国人留学生対象の特別な科目・講座等は担当できません。

2) 担当授業時間数（teaching load）

講師一人の担当授業時間数（teaching load）は、1週間に4コマ（注：1コマは、週1回90分の授業）、あるいは4コース（通年4単位または半期2単位のコース）とし、1学期につき合計8単位（週4コマ）を目安とします。この時間数を担当できない場合は、同一大学で二つ以上の学部、あるいは二つ以上の大学で兼任できるよう、近隣の他大学と共同で招へいを申請することをお勧めします。この場合、各大学（学部）2～6単位（週1～3コマ）ずつの担当となる場合があります。

3) 担当授業の履修登録者数

履修登録者数が極端な少人数（2～3人）や逆に多人数（150人以上）となる講義内容・設定は避けてください。

■ 経費

講師の担当授業に直接関連した経費が生ずる場合は(例:学生に配布する教材のコピー代等)、受け入れ大学でご負担をお願い致します。日米教育委員会は、講師の生活費、住宅手当、家族手当、疾病・傷害保険、往復旅費等、基本的な必要経費を講師に直接支給します。また来日のための査証(教授ビザ)、航空券の手配等の事務手続き、および講師への支払いは当委員会が行います。

■ 日程および全体の流れ

		受け入れ大学 申請～受け入れまでの流れ	講師 選考～来日までの流れ
2025 年	春		2026 年度「フルブライト米国人招へい講師プログラム」の募集開始 (米国協力機関にて)
	夏	受け入れ大学の募集開始	
	秋	受け入れ大学の募集締切 (2025 年 10 月 31 日)	応募者の書類審査(米国内) 米国協力機関より当委員会への候補者推薦
	12 月下旬	講師の内定通知	当委員会の審査後、講師の内定
2026 年	1 月	講師の正式決定	受け入れ大学正式決定
	2・3 月～夏	日本の受け入れ大学と講師の間で、 授業や生活面等詳細についての打ち合わせ(メール等による)	
	9 月	講師の来日(東京でのオリエンテーションの後それぞれの任地に赴く)	
2026 年 ～ 2027 年	秋	日本の大学で 1 学期間あるいは 1 学年間の講義を行う ※半期のみの場合は、2026 年秋または 2027 年春に来日	
	7 月		

■ 講師の選考

講師の候補者は毎年、来日前年の春に米国内で行われる一般公募に応募し、秋に米国内で行われる専門家による審査(peer review)を経て、当委員会に推薦されます。当委員会は推薦された者の中から最適候補者を選出します。

■ 招へいの方法

講師の派遣先は、日本の四年制大学を対象とします。既存のアメリカ研究プログラムを持つ大学に限らず、学生の教育面でフルブライト講師の貢献に期待する大学も含まれます。その年に選ばれた講師候補者に最も相応しいと当委員会が判断した大学に決定します。

- 1) 講師の招へいを希望する大学は、2025 年10月31日(金)までにオンライン回答フォームを提出してください。
お寄せくださる回答は一大学から何件でも構いません。なお、講師を招へいすることについては、記入者の単独の意見だけではなく、部局関係諸氏の同意を得ているとみなします。
<https://forms.office.com/r/vM07ne0jja>
- 2) 受け入れが決定した場合、
 - a. 受け入れ担当責任者(教員・職員)を明確にご指名ください。
 - b. 受け入れ担当教官をご指名ください。受け入れ学部が複数になる場合は、それぞれの学部につき一名の担当教官をご指名ください。

担当教官の役割は、

- (1) 当委員会との「窓口」となり、講師の受け入れについて話し合う、
- (2) 講師受け入れに関する学内手続き(教授会等)を行なう、
- (3) 講師の担当する授業科目・講座について講師と事前に綿密な打ち合わせを行なう、
- (4) 来日中、講師の活動がスムーズに行なわれるよう適宜助言し援助する、等です。

- c. 講師の滞在に必要な基本的経費は当委員会が支給しますが、住宅の提供、研究室の提供、その他講師の教育活動が円滑に行われるよう学術面・事務取扱・生活全般に関して支援をお願いします。

また次の点も併せてご了承ください。

- 1) 講師の専門分野については、その年によって応募者の多い分野とそうでない分野があります。希望分野の講師候補者が選出されない場合もあります。
- 2) 講師の人数が約5名と限られているので、招へい希望を多数お預かりした場合は全ての要請に応じることはできません。
- 3) 受け入れ大学として申請し、講師派遣が決まった場合、その受け入れを辞退することは極力お控えください。招へい講師のプログラムキャンセルにつながります。
- 4) 査証の手配は、当委員会において講師に「教授ビザ」を取得してもらうよう手続きを致します。

■ 身分の取り扱い

国立大学法人については、昭和29年9月25日付文部省通知「文人任第96号」が適用される旨理解しております。その他の機関については、各機関の規定により適宜お取扱いただきますようお願い致します。

■ 「フルブライト米国人招へい講師プログラム」の受け入れ要項

https://www.fulbright.jp/scholarship/host_institutions.html

フルブライト米国人招へい講師プログラム
受け入れ要項



■ 過去の招へい講師のリスト (奨学生リスト)

「米国人対象奨学金カテゴリー」より「Lecturing Program」を選択してください

<https://www.fulbright.jp/scholarship/grantee.html>

奨学生リスト



■ 過去の招へい講師の体験談 (My Fulbright Story)

「米国人対象奨学金カテゴリー」より「招へい講師プログラム」を選択してください

<https://www.fulbright.jp/scholarship/story/>

My Fulbright Story



問い合わせ先

下記、問い合わせフォームをご利用ください。

<https://www.fulbright.jp/contact.html>

日米教育委員会 (フルブライト・ジャパン)

フルブライト交流部

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 207

<https://www.fulbright.jp>

日米教育委員会
トップページ



<https://forms.office.com/r/vM07ne0jja> よりご回答ください。

メール・郵送・FAX は、受け付けておりませんので、予めご了承ください。



貴学について

大学名(日本語) (英語)
部局名(学部、学科、研究科) (日本語) (英語)
住所
記入者: 氏名、部署・役職、Email、電話番号
日米教育委員会との連絡担当者(記入者と異なる場合): 氏名、部署・役職、Email、電話番号

招へい計画について

1. 招へい講師が授業を行うキャンパス名
2. 招へい希望期間(該当するものすべて選択してください) ☐ 10 カ月(2026 年 9 月中旬～2027 年 7 月中旬) ☐ 秋学期 5 カ月(2026 年 9 月中旬～2027 年 2 月中旬) ☐ 春学期 5 カ月(2027 年 3 月中旬～2027 年 8 月中旬)
3. 英語で簡潔に招へい理由(Justification to invite a Fulbright Lecturer)
4. 招へい講師に担当してもらいたい授業名(具体的に) ・対象の学生(例:学部 2, 3 年生対象、など) ・対象の学生の英語習熟度(例:英検 2 級、TOEIC 700 点、など) ・必要コマ数
5. 希望する招へい講師の授業形態 ☐ 招へい講師が主担当となり単独で講義を行う ☐ 貴学日本人教授/講師と共同で講義を行う ☐ 招へい講師が主で講義を行うが、大学院生アシスタントを配置 ☐ 上記のいずれも調整可能
6. 講師招へいに関して、部局内関係者の合意を得ていますか?
7. 貴学において招へい講師を受け入れる場合、年齢制限の規定はありますか?
8. 貴学においてこれまでに初来日の外国人講師を受け入れた経験がありますか? 受け入れ経験がある場合、簡潔に状況をご説明ください(受け入れ時期、回数、頻度、サポート体制等)。
9. 貴学において英語ベースの授業を現在実施していますか? 実施している場合、簡潔に内容をご説明ください(授業内容、回数、頻度、サポート体制等)。
10. 講師招へいに関して、近隣の他大学と共同で招へいを計画していますか? 共同招へいを計画している他大学名:
11. 人文・社会科学における希望専門分野(複数選択可) ☐ アメリカ研究 ☐ アメリカ史 ☐ アメリカ文学・比較文学 ☐ 思想・哲学 ☐ 法律学 ☐ 経営学 ☐ 経済学 ☐ 社会学・人類学 ☐ 教育 ☐ 外交史・国際関係論 ☐ 美術史 ☐ 政治学・行政学 ☐ コミュニケーション学 ☐ 地理学 ☐ その他
12. 貴学が提供できる施設・設備・サービス(該当する項目をすべて選択してください) ・宿舎: ☐ 大学の宿舎 ☐ 民間住宅斡旋 ☐ 家具・家財道具付き ☐ 家具提供 ・研究室: ☐ 個室 ☐ 共同利用 ☐ 電話 ☐ パソコン ☐ コピー機 ☐ インターネット ☐ 大学のメールアドレス ☐ 助手・院生アシスタント ☐ 通訳 ☐ 交通費 ☐ その他
13. 講師の授業外活動への要望(講義以外に学内外等で考えられる活動等 例:講演会)